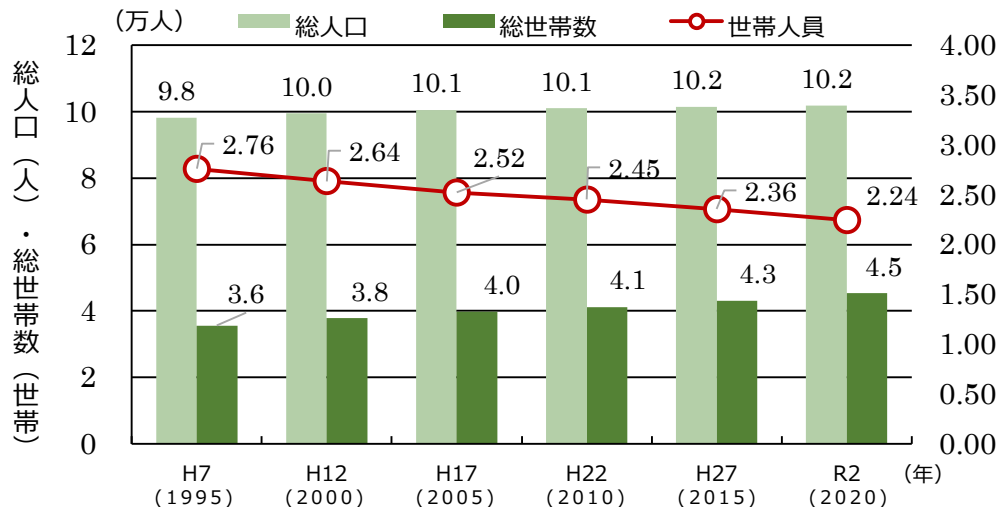


# 3. 人口と世帯 (1/2)

まちづくりの最も重要な要素のひとつであるこれまでの人口と世帯の推移と将来人口推計を示す。

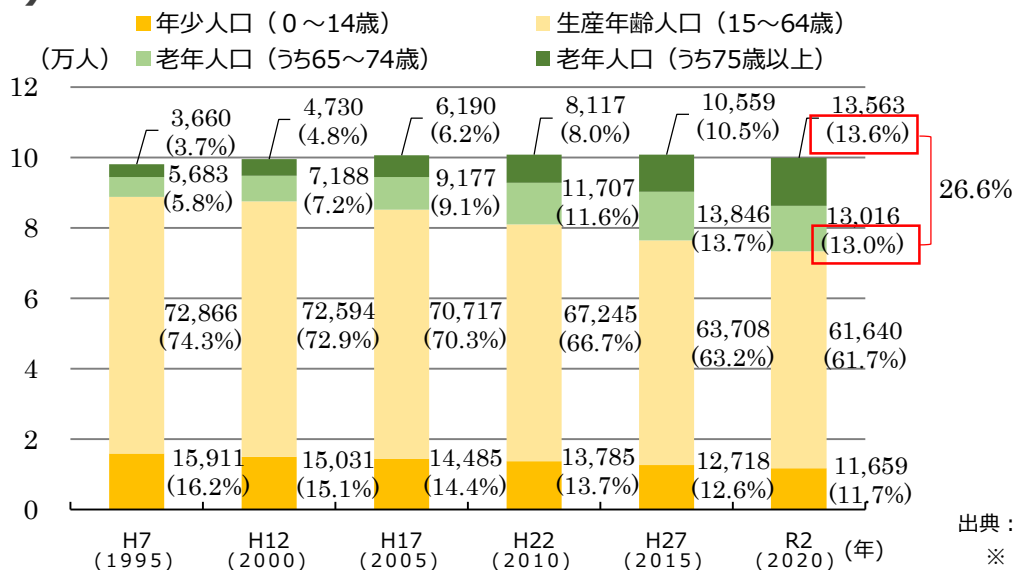
## (1) 総人口・総世帯数及び世帯人員の推移



出典：総務省「国勢調査」

- S46(1971)年の市制施行当時、約4万5千人であった人口は、その後急増し、H13(2001)年に10万人を超えた。
- その後は、微増から横ばい傾向で推移し、R2(2020)年では約10万2千人。
- 総世帯数は総人口を上回るペースで増加し、R2(2020)年では約4万5千世帯。
- 1世帯当たりの世帯人員は、R2(2020)年では2.24人まで減少。

## (2) 年齢階層別人口の推移



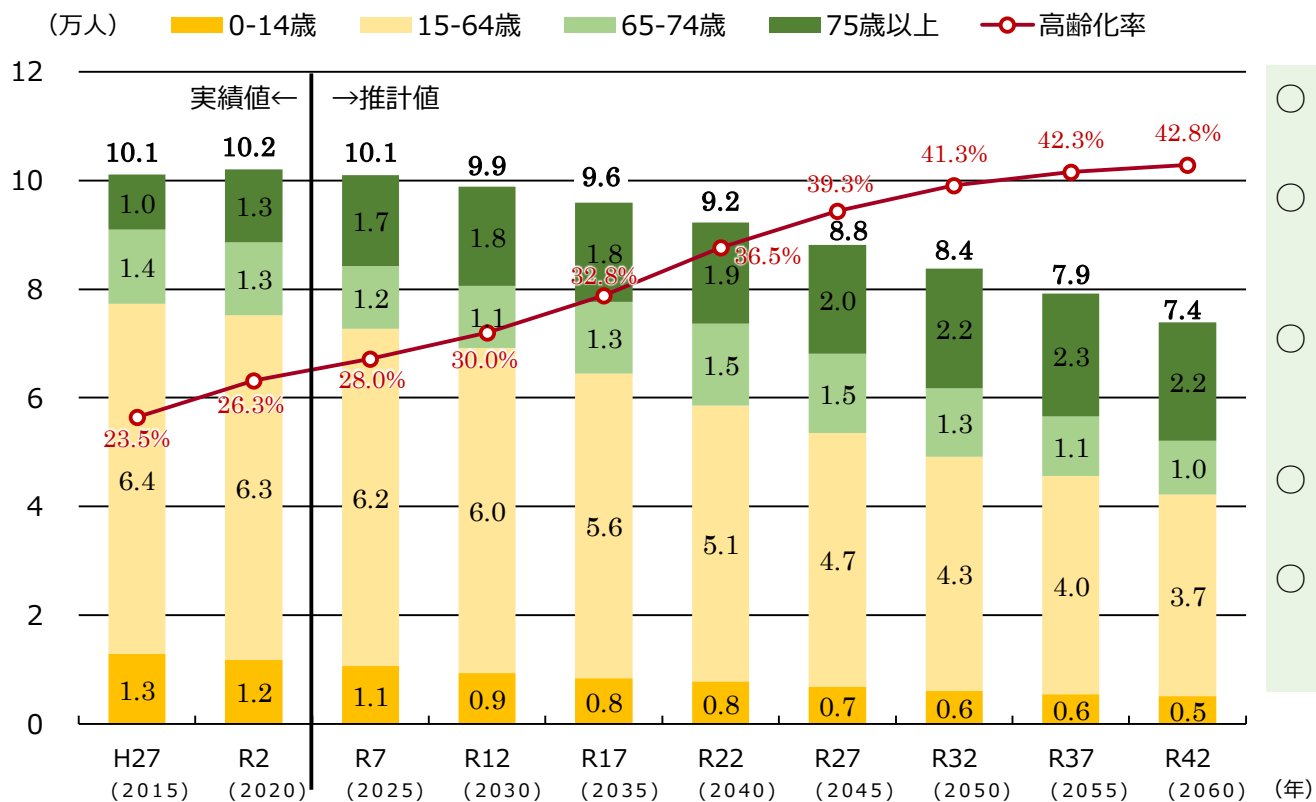
出典：総務省「国勢調査」

※ 年齢不詳人口は除く

- R2(2020)年の年少人口(0~14歳)は11.7%、生産年齢人口(15~64歳)は61.7%、老年人口(65歳以上)は26.6%、また、老年人口(うち75歳以上)は13.6%。
- 年少人口及び生産年齢人口の割合は、減少傾向。
- 老年人口はH7(1995)年以降急増し、H17(2005)年には年少人口を上回る。
- R2(2020)年には、老年人口(うち75歳以上)が老年人口(うち65~74歳)を上回る。

## 3. 人口と世帯 (2/2)

### (3) 将来人口推計



出典：「令和2年度伊勢原市次期総合計画策定基礎調査における将来人口推計結果」

- 市全体の人口は今後減少に転じ、R42(2060)年に約7万4千人になると推計。
- 年少人口(0～14歳)は、R2(2020)年の約1万2千人からR42(2060)年には約5千人と約6割減少すると推計。
- 生産年齢人口(15～64歳)は、R2(2020)年の約6万3千人からR42(2060)年には約3万7千人と約4割減少すると推計。
- 高齢化率はR12(2030)年には30%以上となり、約3人に1人が高齢者となると推計。
- 今後、人口減少・少子高齢化に伴い、労働力の減少による地域経済の活力低下や社会保障費の増加などが懸念される。